

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

石井町藍畑小学校
「学力向上実行プラン」

- ・子どもの気づきや分かる喜びを大切にし、基礎的・基本的な知識・技能の定着と思考力・判断力の向上を図り、楽しいと感じる授業を工夫する。
- ・ICT機器を活用した個別最適な学びと協働的な学びを推進する。
- ・児童同士の学びを大切にし、言語活動の充実と、基礎・基本の徹底により学びを定着させる。
- ・読書活動の推進により語彙力・想像力を向上させ、豊かな心を育てる。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、
(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○どの学年も落ち着いて学習に取り組 み、与えられた課題にもまじめに取り 組むことができる児童が多い。 ○ICT支援員の協力を得て、タブレットの 基礎的な操作のスキルが身に付いて いる。デジタル教科書を活用し、個別 最適な学びを実現している。 ●既習事項を生かした応用問題に苦手 意識をもつ児童が多い。 ●長い文章を正確に読み取ったり、話を 聞いて内容を把握したりすることに課 題がある。	・アンケートで「授業は分かりやすく楽し い」と答える児童を 90%以上にする。 ・ICT機器を活用し、個々の能力に合わ せた知識・技能の習得や、応用問題に 取り組むことができる。 ・文章の内容を正確に読み取ったり、話 をよく聞いて、内容を把握したりできる。	・子どもの気づきや分かる喜びを大切にし、楽 しい授業を工夫する。 ・タブレット端末を、授業だけでなく家庭学習で も活用するようにし、個々の能力に合わせた 学習内容を提示する。 ・基礎基本の徹底だけでなく、既習事項を生 かした応用問題や、日常での活用などを授 業に取り入れる。 ・「作文読本」を活用し、視写したり、音読し たり、作文を書いたりする活動を取り入れる。	・授業のはじめに「めあて」を、おわ りには、「ふりかえり」を確認し、学 習内容の定着を図る。 ・日記や作文、手紙などを書く際 には、文構造を意識させるとともに、 学習した漢字を使用させる。 ・相手意識・目的意識を明確にもち、 発言したり、記録したりする学習活 動を常に取り入れ、課題解決に意 欲的に取り組めるようにする。	・アンケートで「授業は分かりやすく楽しい」 と答える児童は、94%と目標を達成し た。引き続き、授業研究を続けたい。 ・どの教科においても「相手意識・目的意 識」「めあて」と「ふりかえり」を明確にした 授業づくりを実践することにより、学びを 確かなものにできた。しかし、定着にかか る時間が十分確保できなかった。 ・授業や家庭学習でICTを有効活用し、 個々の知識・技能の向上に努めた。	・自分が伝えたいと思う魅力的な テーマを設定し、書くことに対す る意欲を高める。 ・ICTを活用した実践を紹介し合 い、より効果的に活用する。 ・日記指導や作文指導により、基 礎基本の習熟を図り、文章力の 向上につなげる。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○答えを発表したり、文章を声に出して 読んだりすることのできる児童は多 い。 ●自分の考えを理由や例を挙げて話し たり、自分の思いを伝えたりすることに 課題がある。	・根拠や理由を明らかにして、自分の考 えを表現したり、自分と友だちの意見を 比べながら聞いたりすることで、考えを 深めることができる。 ・アンケートで「進んで自分の考えを発表 したり、話し合ったりする。」と答える児 童を 85%以上にする。	・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に 設定したり、ホワイトボードやICTを効果的に 活用した発表や話し合い活動をさせたりす る。 ・児童の発言や発表の内容に「なぜ」「どうし て」など、思考を深める発問を行うなど、豊か な言語活動が展開されるようにする。 ・家庭と連携して言語環境を整える。	・各学年の発達段階に応じて、自分 の考えを論理立てて説明したり、気 付きを発表したりする場面を授業 の中に取り入れる。 ・調べ学習を行う際には、ICT、図書 や新聞などの資料やグラフを用い るほか、友達同士の対話など、児 童に選択させる場を設ける。	・タブレットを用いることで、伝えたい内容を 整理して発表したり、思考ツールを友達と 見比べながら考えを深めたりすることが できた。 ・アンケートで「進んで自分の考えを発表し たり、話し合ったりする。」と答える児童は 84%で目標を達成できなかったので、授 業形態の工夫を図りたい。	・様々な授業でタブレットを有効 に活用する。 ・「なぜ」「どうして」「どのように」 などの問いかけにより、思考が 深まる授業づくりに努める。 ・個別、ペア、グループなどの学 習形態を多様化し、主体的で対 話的な学びの場を設定する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ほとんどの児童が毎日宿題をし、提出 している。 ○授業に対してまじめに取り組み、よく聞 き、考える児童が多い。 ●応用問題に、粘り強く取り組むことので きる児童は少ない。 ●読書習慣の定着が十分ではない。	・基礎基本の問題だけでなく、応用問題 や教科書に載っていない読解問題など にも最後まで取り組むことができる。 ・読書習慣を身に付け、前後期ともに、低 学年 50 冊、中学年 40 冊、高学年 30 冊 の目標達成児童を 80%以上にする。	・各教科の学習や家庭学習に、基礎基本の問 題だけでなく、応用問題や教科書に載ってい ない読解問題などを取り入れる。 ・絵本の読み聞かせや図書委員による読書冊 数の表彰に加え、イベントを行い読書への興 味関心を高める。 ・本の貸し出しを推進し、家庭と連携して読書 の習慣を身に付ける。	・習熟度によっては、前の学年の学 習まで戻って復習を行う。進んでい る児童にはタブレット等で自主的に 学習を積み上げるようにする。 ・地域の読み語りボランティアの協 力を得て、読書の楽しさや言葉の 機会を設ける。 ・図書室へ行く機会を意図的に増や す。	・児童の意欲が高まるチャレンジプリントや タブレットの学習アプリなどに取り組める ようにした。 ・個々の習熟度に応じて、TT による個別指 導を行い、学習内容の定着を図った。 ・アンケートで「進んで読書をしている。」と 答える児童は54%と達成できなかった。 読書推進への工夫が必要である。	・教科・領域の横断的な単元を構 成し、関連読書を勧める。 ・タブレット学習においては、効果 的な活用場面を研究し、個別最 適な学びと協働的な学びの場 を意図的に設定し、児童が主体 的に学ぶ力を育む。

